



(縁・円・援)

兵庫えんだより

このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

～みなさんの新人の頃を思い出してください～

仕事では、だれもが新人の時期があります。生活支援 CO も地域住民や行政の担当者等の関係者との連携・協働を進める上で多くの戸惑いと悩みを抱えているといった声を聞きます。

そこで、今年度の『生活支援コーディネーター基礎セミナー』（オンライン開催）は、新人 CO 28名から聞き取りを行い、セミナーの企画に臨みました。75名が参加した本セミナーでは、実践報告者の新人の時の「もやもや」を共有し、どのように乗り越えていったのかを、講師の兵庫県立大学の竹端先生に紐解いていただきながら学びました。

いまのもやもやは？
良かったことは？
学びたいことは？



新人の声

- 電話対応が難しい
- 自分より年上の人との関わり方
- 個別支援と地域づくりへのつながり方
- 制度、CO の役割等の伝え方
- 集い場で何を話せばよいの？

- 「地域に出る」がわからない
- 制度のことがわからない
- 地域課題ってなに？
- 地域の困りごとをどうするの？
- 1 層の役割がわからない

知識

技術

価値

- 高齢者の価値観とは？
- 何が成果なのか？
- 住民との関係性
- 地域活動の価値

こんな声を
聴いて企画

ワーカー
としての
成長

9月13日 生活支援コーディネーター 基礎セミナー開催(参加者 75名)

【行政説明】「地域支援事業の概要」

説明者：兵庫県健康福祉部 少子高齢局 高齢政策課 地域包括ケア推進班 班長 山田 真太郎氏

【講義】「他者性と唯一無二性の理解 ワクワク仕事をするために」

講師：兵庫県立大学 環境人間学部 准教授 竹端 寛氏

【実践報告】「生活支援コーディネーターの実際の取り組み」

講師：猪名川町社会福祉協議会 在宅福祉課係長 第2層生活支援コーディネーター 元岡 智恵子氏
明石市社会福祉協議会にしあかし総合支援センター 第2層生活支援コーディネーター 山岡 和希氏
香美町社会福祉協議会 生活支援兼地域福祉活動コーディネーター 森田 洋子氏

行政説明:地域支援事業の概要



兵庫県高齢政策課
山田班長

- 地域支援事業とは→・介護予防・日常生活支援総合事業
・包括的支援事業（この中に生活支援体制整備事業がある）
・任意事業
 - 地域支援事業による地域づくり→社会参加で「介護予防+生活支援」
 - これからの大きな方向性→地域共生社会の実現に向けて
もう一つの予防「地域でつながる」
- ※生活支援 CO は住民に寄り添い、地域の支え合い活動を支援していく。

【お知らせ】

『生活支援コーディネーター実践セミナー』は、下記日程で開催予定です。

詳細は追ってお知らせします。

●令和3年12月7日（火）10時～16時00分

【発行元】（令和3年10月29日発行）

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号

兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部

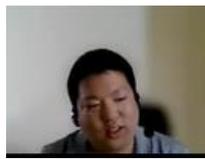
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297

E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp（担当：山下・永坂）

新人の頃を振り返り、実践を語る3人から学ぶ



ホームヘルパーからCoへ
猪名川町社協
元岡氏



他職業から転職
明石市社協
山岡氏



社協内での異動
香美町社協
森田氏

地域福祉って？専門用語がわからなかった。自治会長への説明会での大失敗がターニングポイントになった。

6年前、目的もわからないモデル事業から始まった。楽しかったのは、関わりが難しい自治会長に出会った頃から。

最初は、地域に出てもまるで「置物」のようだった。地域カルテを活用し、地域の情報を集めて地域に出て行くようになった。



3人の報告者が乗り越えてきた実践の工夫のポイント

地域への入り方

- ◆馴染みの関係のあるところから。サロンは参加費を払ってお客として観察。そして、自分のできそうなことから声をかける。
- ◆住民の何気なく話すことにどんな意味があるのかなど、日頃からアンテナを張っておく。

住民との話題の持ちかた

- ◆地域活動は他の住民は知らないことも多い。民生委員等から活動場所を聞き、そこで聞き取りを行う。聞いたことを冊子にして配布する。
- ◆自分のことをオープンにし、個人として知ってもらう。
- ◆訪問先の近くの神社などに立ち寄り、地域のことを観察する。

住民との「壁」について

- ◆はじめは「何しに来た？」という感じだった。時間はかかるが、できること考え、色々な人から学ぶ姿勢を大切にやり続けた。すると、住民から「こんなことしたいのだけど」という声が聞けるようになった。
- ◆「新人だから」「能力がないから」ではない。人と人としての丁寧な関わりを通じた関係性ができてから。
- ◆その人が何を訴えようとしているのか聞き取りをする姿勢が大切。「この人が楽しくなるにはどうしたらよいか」という視点を持つ。
- ◆周りの民生児童委員、高齢クラブ等のリーダーに話しかけながら協力者を増やしていく。

住民の主体性を上げるとは

- ◆小さな成功体験をつくり、地域の良さ、できることを見つける。
- ◆COが関わる中で、つながりの輪が広がっていくことを実感。
- ◆コロナ禍でも、30秒でもよいから会いに行き顔を合わせる事が大事。

制度・COの役割の説明について

- ◆地域の情報を集めていくと話題が持てる。そして、関係性ができてくると相談が入り、受け入れてくれた。
- ◆国のガイドラインや文献に記載されていることだけでは伝わらない。自分の言葉で説明できるように。

講義：他者性と唯一無二性の理解 ワクワク仕事をするために



兵庫県立大学
竹端先生

この仕事、一つの「正しい答え」がないことがしんどいところでもあり、面白みもある。見通しの立たない事にどう向き合うか。多機関・住民と自分の意識、方向性がずれていると分かった時にどうするか。相手を変えるよりは自分が変わる方が早く物事が進む場合が多い。相手への評価・査定（腹が立つ、嫌い等）はせず、自分のこだわりは手放すことも必要。

相手の強みや得意なことに自分の強み・得意なことを重ね合わせ、ともに考えるモードに持っていけるかがポイント。関わりから相互変容に向かうことができる。小さな成功体験を積み上げていこう。

こうしていきたい

明日から取り組みそうなこと(受講者の声)

まずは、目的をもって地域に出ていこう。



どうなるかわからないと不安に思っている自分を受け入れること。



第1層と第2層で立場が違っても、住民の思いを最優先に考える。



住民にオンラインツール等、様々な情報発信をしてみよう。楽しむこと何でもやってみよう。



他市町の生活支援COと交流しよう。



Google Jamboard
オンライン上でも付箋紙を使った演習ができました。

【編集後記】

兵庫県立大学の竹端先生から、研修前の打合せで「受講者が変わる前に、主催者側が変わらなければいけない。プログラムを企画する時にじっくりとCOの想いや悩みを聞いていたのか？」という問いをいただき、主催者として大きな気づきとなりました。そして、この問いは、地域の中で専門職が住民に対して「～をしなければならない」と押し付けてしまうことと同じであるように感じました。

今回の研修は、受講者であるCOの声を聞き、「求められていることはなにか」と主催者も模索しました。これからも互いに学び合う姿勢もCOに伝えていきたいと思えます。